

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.74 2016年5月15日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

2016年春 特別企画

劇団新人と劇団員の自主的役者修行の発表会

劇団新人の田中耕一さんの発表会と、劇団員の自主的発表会が4月30日に行われました。それぞれの方々に、感想などをお寄せいただきました。

無謀な挑戦者

田中 耕一

初めまして。京浜協同劇団の新人 田中耕一と申します。私の名前に聞き覚えがある方もいらっしゃるかも知れませんね。私は、2002年にサッカーの「FIFA日韓ワールドカップ」が開催されたました年に、現役サラリーマン初のノーベル賞受賞として大きな話題となりました、島津製作所の「田中耕一」さんと同姓同名です。

私は学生時代を通して演劇とは無縁でした。所謂、体育会系でした。そんな私が京浜協同劇団に入団し、演劇を始めるキッカケは、違う人生の自分と出会いたい、と思ったからです。

ノーベル賞の田中さんや駅などで見かけるホームレスとして生活されている方々の中にも同姓同名の方もいらっしゃるかも知れません。そして、良い悪いではなく、皆さん違う人生を送っていらっしゃいます。以前より、何が違って違う道を、違う人生を歩んでいるのかと不思議に感じていました。人生の目的が違うのか。仮に「幸せになる」と言う目的だとすれば、人それぞれに「幸せ」の定義が違うのか。未だ未だ未熟な



新人田中さんの外郎売

私は、今でも答えに辿り着けずにいます。

その様な中で近年は自分にも違う人生があったかも知れないと考えるようになり、昨年末に今からでも遅くはない、何かをしなければ変わらない、変えられないと思ひ、今までやった事のない事やってみよう、



南京玉すだれに喝采

違う人生の自分に会えるかも知れないと考え、演劇の道を歩み始めました。

今まで、観劇もした事のない私がいきなり劇団に入り演劇をするのは、かなり高いハードルであり、周りから見ると無謀に近い挑戦だったとは思いますが、京浜協同劇団で暖かく迎えて頂けることとなり、今年初めより参加させて頂いています。

去る4月30日、新人稽古と閑演期活動の結果発表会をスペース京浜で開催致しました。私も新人稽古発表として「外郎売り」「カチカチ山」「南京玉すだれ」を披露させて頂きました。終了後の意見交換会では温かいご意見も頂き、今後の励みになりました。

ありがとうございました。

稽古は週1回、4ヶ月に及び、外郎売りのセリフを少しずつ覚えたり忘れたり、言葉のイントネーションも毎回指摘を頂き、本当に一歩進んで二歩退がる様な日々でした。根気強くご指導頂いている護柔さん、和田さんに深く感謝しております。

内容的には決して良いものではありませんでしたが、



セリフ覚えが悪く、初めての私にとっては小さくても一つの結果が出てホッとしています。

私の無謀な挑戦は未だ未だ途中です。

7月23、24日に多摩区にあります多摩市民館で川崎演劇まつりとして「ブンナよ、木からおりてこい」が上演されます。私はネズミ役と言う重要な役を頂き、出来ないかもと思う不安な気持ちと闘いながら稽古に励んでおります。

未だ未だ、演技と呼べるレベルではありませんが、無謀な挑戦者の姿を見に来て頂けたら幸いです。

これからも、新しい事にチャレンジする気持ちを忘れずに、違う人生の自分探しを続けて行きます。

演閑期活動発表会について

勉強になりました

瀬谷 やほこ

4月30日(土)3時からスペース京浜で、新人発表会と演閑期活動の発表会が、行われた。演閑期活動発表会について、報告します。

演閑期、聞きなれない言葉ですね、これは、京浜協同劇団の秋の公演が終わった時から、次の公演の稽古が始まるまでの間に、フリーの期間が3~4ヶ月くらいできます。それを農閑期に掛けて演閑期としたのです。役者の自主的な活動で、それぞれが、やりたい事を持ち込み、グループまたは個人で発表します。今回は次の3本でした。

朗読 豊田正子作「夜逃げ」 綴方教室より 監修



細田寿郎

出演 若菜とき子、坂木フミ

課題 若菜=ロレルのでそれを直したい。坂木=いつでも芝居ができる状態を保っておきたい。

笑劇 チエホフ作「熊」

出演 藤井康雄、大谷敏行、稲垣美恵子、宮原喜美子、瀬谷やほこ

課題 喜劇を創る上で役者の演技は何をしなければならぬか。

朗読 宮沢賢治作「春と修羅」

出演 藤井康雄、鬼丸ゆり

課題 以前から朗読してみたかったので、形にしておきたかった。

ここでは、私が参加した「熊」を中心に書きます。というのは、稽古はそれぞれがやって自分の参加していない作品については何も分からないからです。

「熊」演出はたてずに皆で意見を出し合って作って行こうという事になった。こういう勉強会の場合、教



えてもらおう、教えてあげようでは成り立たない、それぞれが明確な意思を持って参加しないと成り立たない。

*演出なし、役者同士で意見を出し合って稽古する、これには同等な立場で稽古することが前提になる。言われたことに、まずは演じて見る。ところが、できない。さあ如何するか、その事ができるようにするには、そこに教え、教えられる関係が出てきてしまった。

*また、読みの段階でできたと思っていたが、作品の統一した理解がなされなかった。立ち稽古に入っていてできない。なぜできないのか掘り下げてみるとその場面の意味合いを違えていたのだ。私はこう演じたいという思いと、作品のその場面の意味合いと合致しないのだ。

*頭ではこう演じたいと思っている、理解していることが、肉体化されず、生きた人間になっていない。

思った以上に時間がかかる。勉強会の課題なんて何もやれてない。勉強会なのだから、完成したものにならなくてもいいのではないかな？ できる限りの事を尽くそう。その結果は、次の芝居の稽古に入った時役者

一人一人が感じるだろう。未完成でも仕方がないと腹をくくって、発表した。

結果は？ 見に来てくださった方々から「あそこはこうしたら?」「熊のような作品やってもらいたいな」「かみあってない」「宮ちゃん、稲垣さん素敵」とか、皆言いやすいみたいで、たくさん意見が出た。未完成の作品ならではの効果でした。

役者は、文字どおり、赤っ恥をかいた!!!

特別企画 初舞台&演閑期活動の発表会を観て

横浜市立図書館で「熊」を見つけ

西川 日女子

4月30日(土)午後3時より、スペース京浜で行われた劇団新人の田中耕一さんの短期研修発表会と、劇団員の自主的役者修行の発表会、後者は劇団員が演劇活動が少ない演閑期に普段の劇団公演ではなかなか取り組めない課題に実験的に取り組み、新たな可能性を探るという目標のもとに行われました。まず最初に注目の新人、田中耕一さんの「外郎売」、私は過去に何人かの外郎売を聞いてきましたが、演じる方によっておもむきが変わるのもこの演目の特徴だと思います。



田中耕一さんの外郎売は、とてもすがすがしく、五月の薫風のような感じでした。3ヶ月の短期間に、よくここまで頑張られましたね。一芸に挑戦の「南京玉すだれ」では、東京タワーがうまく立てられず苦労していましたが、私の近くにいた男性が「地震でつぶれたか?」と呟いていました。暖かい励ましだと思います。リーディング、カチカチ山のうさぎ、かわいい顔をして、たぬきを翻弄する姿が、ちょっとこわい……例年、新人の紹介はもっとあとだったと思います。今回は3ヶ月で新人お披露目ができてとても良かったと思います。今後のご活躍を期待しています。

次は豊田正子作「夜逃げ」、若菜とき子さんと坂木フミさんが朗読しました。登場人物は正子のほかに父、母、弟たちがいるのだが、劇団員の宿命でつい人物の



声色や表情まで演技してしまう。私はそれなりに物語の世界を堪能していたが、終演後の交流会では厳しい意見が飛び交った。朗読はあくまで朗読に徹しなければいけない、など、難しいなあと思いました。

次はチェーホフ作「熊」の上演。実は最近チェーホフの戯曲を読むことはおろか、チェーホフのお芝居も観ていなかったことに気付いた。ずっと昔「桜の園」や「三人姉妹」のお芝居を観ていた頃が懐かしい。そこで私は「熊」の戯曲を読みたいと思い、まず伊勢佐木町の古書店に行きました。店主は棚を探してくれたが、「ありませんね、チェーホフはあまり入ってこないんですよ」とのこと、「岩波文庫か新潮文庫で出ていると思いますよ」と教えてもらい、さっそく、有隣堂他の書店をまわったが、ついに「熊」を見つけることはできませんでした。最後に辿り着いたのが野毛の横浜市立図書館。まさに4月30日、公演当日のお昼、窓口の職員にチェーホフの「熊」を文庫本でお借りしたいと申し出ると、すぐに探し出してくださいました。光文社の古典新訳文庫でした。なぜもっと早く図書館に来なかったのだろう。さっそく「熊」を読み、何とか公演に間に合った。後半、未亡人のポポーワと借金取りのスマルノフの気持ちが徐々に変化していくさまを演じるのは至難のわざだったのではないのでしょうか?

最後の演目、宮澤賢治作「春と修羅」の朗読、出演は藤井康雄さん、鬼丸ゆりさん。お二人の流麗な語り口で賢治の世界にひたりました。

劇団員の皆様、どうもおつかれさまでした。

(文化の仲間・世話人)

訃報

文化の仲間の会員の金子康昭さんが、病氣療養中のところ、去る4月16日に亡くなりました。69歳でした。19日に通夜、20日に告别式が行われました。金子さんは、京浜協同劇団の「金冠のイエス」公演では音響を担当されました。

「戦後 70 年を機に、自分史を振り返る」・その 4

——敗戦 5 年後、またまた頭上を戦闘機が飛び交った (1950 年) ——

小田 健也

○敗戦、——昭和 20 年 8 月 15 日、「忍びがたきを忍び……」という聞きとりにくいラジオ放送を聞いた。中学三年の夏である。しかし「平和がやって来たんだ」という実感はなく、当時一番の関心事は「食べ物にあり付く」ことだった。

更にそれから 3 年後、私は旧制・福岡高等学校に入学した。旧制高校のおさだまりの、破帽にマントを羽織り、朴歯の下駄をはいて、一人前の大人になった気分で、〈独り旅〉に出た。

そして広島駅のホームに降り立った。広島駅は市街地の北側の高台にあって、全市が見渡せた。しかし……見渡す限り、建物らしいものは何一つなく、ただ剥き出しの、土くれだけの広っば……だった。その光景を何と言ったらいいか、「原爆って、何もかも無くしちゃうんだな、何もかも！」昭和 23 年 (1948)、夏のことである。

○やっと「戦争の昭和史」から脱け出したと思ったのに、再び戦火が……。

1950 年は実にいろいろなことが起こった——共産党の衆院への 35 人当選。国鉄争議で人民電車が走り、下山、三鷹事件、日本共産党幹部の追放と『赤旗』の発禁、そして我が家も家宅捜索を受けるなど、そして——。

この年の 6 月 25 日、「朝鮮動乱」が起こった。福岡空港から朝鮮半島に向けて飛び立つ米軍のジェット機が、数十回、大学の校舎すれすれに、凄まじい爆音を立てて通過した。教授の声も聞こえない。学生同士の会話すら聞こえない。諦め顔で教授も学生も、黙って爆音が通り過ぎるのを待つだけである。その白けた数分間……。そしてとうとう或る日、1 機が大学の校舎に引っ掛かって墜落した。戦争が身近に感じられた事件であった。

○ものすごく金になるアルバイトがあるんだって！

朝鮮動乱が激しくなった 1950 年頃に「ものすごく金になるアルバイトがあるんだってよ……」という噂が、大学内で流れた。「(内緒めいて) 死体処理……、続々と小倉港に陸揚げされた死体を、きれいに整えてアメリカ本国に送り返す仕事だって。でも、すごく臭いのだって……」

この不気味な噂は、決して根も葉もないことではなかったようだ。ことに米軍が釜山近くまで追い詰められた頃、明日はどうせ生命はないと、兵舎を脱走したアメリカ黒人兵が小倉の家々に押し入って乱暴しているという話がささやかれ始めた。

ちょうどその頃その時刻、私は夜行列車に乗って小倉辺りを通過していた。

その時、車内放送が流れた。「これから関門トンネ

ルに入りますまで、日よけを下ろしてください」。

見るなど云われるとよけい見たくなるのが人情、小倉辺りの駅に停車したとき、そっと鑑戸の窓枠を小さく上げて外を見た。ギョツとした。真向かいに停まっている列車の窓枠いっぱい、黒人兵の顔、顔、顔。——しかし黒人によく見かける、あの陽気さが全くない。異様な空気を感じた。後で分かったことだが、この黒人兵たちはその夜のうちに、輸送船に積み込まれるらしい米兵たちだった。〈黒人兵は最前線に立たされて、[矢楯]になるんだ〉という噂が立っていたので、車窓の黒人兵たちは、今夜が最後の夜になるかも知れない兵隊たちだったのだ。「日本の青年がいる。これを見るのも、最後かもしれない」、そんな目で僕を見詰めていたのだろうか。黒人兵の表情は、心なしか淋しそうに見えた。

○この夜の事件を小説に書いたのが、北九州出身の松本清張氏「黒地の絵」

★朝鮮戦争の真っ只中の北九州・小倉。明日は朝鮮戦線にやられる黒人兵が、兵舎の、金網の下にある地下道を潜って、小倉の街に抜け出し、民家に押し入る。その家の亭主は必死になってその黒人兵を止めようとするが、大男の黒人兵の力に適いっこない。

亭主がその時覚えていたのは、背丈の大きくない亭主の、ちょうど目の前にあった、黒人兵の胸元に彫られていた「入れ墨」であった。

やがて敗色が濃くなった朝鮮戦線から、黒人兵の死体が小倉に送り込まれるようになると、死体を整えて本国に送り返す仕事が秘密裏に始まる。

亭主はその「死体処理場」に通うようになった。そしてとうとう、黒人兵の胸元に彫られていた、あの「入れ墨」を見つける。亭主は刃物で、その黒人兵の胸元から「入れ墨」をえぐり取る。

○「黒地の絵」を教えてくれたのは、作曲家の團伊玖磨さん

この「黒地の絵」という小説を私に教えてくれたのは、オペラ「夕鶴」で一緒に旅をしていた作曲家の團伊玖磨さんである。團さんは或る時、こんなことを私に話してくれた。「この『黒地の絵』をオペラにしたら面白いですよ。小倉の祇園太鼓の激しいリズムが、黒人特有の、あのアフリカのリズムを思い起させ、生きたいという人間らしい欲望を取り戻させたのではないのでしょうか。」音楽家らしい團さんの言葉だった。



1980 年「母 (おふくろ)」の稽古風景 (写真 © 長坂クニヒロ)

2016年版かわさき発『ブンナ』進水！本番にむけて

京浜協同劇団 河村 はじめ

かわさき演劇まつり『ブンナよ木からおりてこい』制作を仰せつかりました河村と申します。なにぶん初の仕事で、何か真っ当な事を言おうにも経験のない所では口ごもります。的外れは何卒ご容赦下さい。私にとって二度目の「演劇まつり」が11年前の『ブンナ』でした。演技のエの字も知らない(というか、興味ない)頃のことで自分が何をやってたかも覚えていません。ただ、すずめの気持ちがピンと来て痛かったのを覚えています。実際に動物たちはああいう事を言ったり考えたり(恐らくは)しませんが、でも命が奪われる瞬間や間一髪のときにふと、よぎる感覚は人間と等しくあるのではないか。水上勉原作・小松幹生脚色による擬人化された動物たちの物語は、もちろん人間に向けて語られた一つの寓話ですが、面白い構造になっています。ブンナが榎の木の頂上で体験する動物たちの冷徹な食物連鎖の物語(これは水上勉が実際に聞いたどこかのお寺のお坊さんが大木の頂上に登って、瀕死の小動物の蠢くのを目にした話が基になっているそうです)と、人間に捕えられたブンナたちの脱出ストーリー、この二つが並行して進みます。ここで興味深いのは、自分たちが助かるためにブンナの話が手がかりになるかも知れない、と老蛙に促されて樹上の物語が語られます。脚本上の都合と言ってしまえばそれまで、しかしここで一体何が彼らの「生きのびる」ヒントになるのか、また何故それが是とされるのか、言葉ではうまく説明されていないけれども何か腑に落ちさせて

くれるものが確かにあります。これを、普遍性と言うのでしょうか。あるいは、希望というのでしょうか。よく思い出す観劇体験があります。十数年前、神奈川でのある親子向け劇場での事、開演前まで通路を走り回っていた子どもたちが役者の第一声からシンと静まり、最後の最後まで空気が微動だにしないまま、最後の最後まで空気が微動だにしないまま。私ももちろん釘付けになってその芝居を見ました。その翌年に上演されたいかにもく子ども向けな体裁の芝居では、終幕まで子どもたちの騒ぎ声がたえなかったのと、見事な？対照だったのが記憶に焼きついています。芸術は多様であって良いですが、(芝居に限らず)人を納得させる普遍性には子ども向けも大人向けもきっと無いのではないかな……そんな事を思います。

『ブンナ』は大人の心も揺さぶる要素があります。シンプルで力強いテキストを、上演すべく集った市民による稽古が5月連休のさなか、本格的に始まりました。2016年版かわさき発『ブンナ』始動です。今回は演劇まつりの新顔になる川崎の「劇団企てプロジェクト」の小山氏に演出を担って頂きます。美術には第一線で活躍される小池れいさんをお招きし、生演奏やダンスのある楽しい音楽劇になる予定です。どんな躍動的な舞台を形作って行くか、どうか楽しみに。制作の立場としては、チケット予約・拡大にもぜひご協力を！公演に(よければ稽古にも)ぜひお運び下さい。お待ち申し上げております。



日程 2016年7月23日(土) 2時・6時30分
24日(日) 2時
会場 多摩市民館ホール

入場料 大人2000円 子ども1000円

観劇申込先 かわさき演劇まつり実行委員会

〒212-0052 川崎市幸区古市場2-109

TEL 044-511-4951 FAX 044-533-6694

メール matsuri_engeki@yahoo.co.jp

観劇申込方法 ハガキ・FAX・メールに、①お名前、②観劇希望日時、③大人〇枚、子ども〇枚、④住所、⑤電話番号を明記の上、上記の申込先へお送りください。申込後に、チケットと振込用紙をお送りします。1週間以内にお振込みください。

◎文化の仲間通信◎

◆平和をきづく市民のつどい

川崎市核兵器廃絶平和都市宣言 34 周年記念

日程 6月5日(日) 午前10時～午後3時半

会場 川崎市平和館(川崎市中原公園内) 入場無料

記念講演 伊藤真「安保法制と立憲主義・憲法」

プログラム (午前) 学童パフォーマンスーオカリナ
／映像「戦争の作り方」／中原今昔ものがたりー学
童疎開編／朗読劇「ヒマラヤスギは知っている」／
合唱団いちばん星演奏／クックヨシザワ&みんなで
歌うレミゼ／(午後) KMC プラスバンド／学童パ
フォーマンスー中之島／朗読劇「沖縄」ほか

展示も充実、平和館の外ではつどい参加者による模
擬店・バザー等も開催。

問合せ 実行委員会 044-766-0550 (田辺)

◆ウィーン少年合唱団

日程 6月5日(日) 午後2時

会場 ミューザ川崎シンフォニーホール

入場料 5,900円(全席指定) 舞台後方席2,000円

主な曲目 おお、運命の女神よ／チム・チム・チェリー
／花は咲く／ふるさと／ひとりぼっちの羊飼い ほか

問合せ 神奈川芸術協会 045-453-5080

<http://kanagawa-geikyoi.com/>

◆山寺圭子 うた・唄・歌

日程 6月25日(土) 開演14:30

会場 伝承ホール(渋谷区文化総合センター大和田6
階) JR 渋谷駅南口から徒歩5分

チケット 3,500円(全席自由)

ソプラノ 山寺圭子／ピアノ 朝岡真木子・梅澤文子

主な曲目 アニーローリー／故郷の空／荒城の月／平
城山／のばら／花のまち／母の家／君死にたもうこ
となかれ ほか

問合せ 山寺 044-511-8995

◆こまつ座 第114回公演

紙屋町さくらホテル

日程 7月5日(水)～24日(日)

詳しい日程・開演時間は問合せ

会場 紀伊国屋サザンシアター(新宿南口)

入場料 7,000円(全席指定) 夜チケット6,500円
学生割引4,000円

作 井上ひさし／演出 鶴山仁／出演 七瀬なつみ・
高橋和也・相島一之・立川三貴 ほか

あの戦争の責任はどこにあるのか……今、すべての
日本人に問いかける感動の舞台

申込み・問合せ こまつ座 03-3862-5941

<http://www.komatsuza.co.jp>

◆第42回 日本フィル夏休みコンサート2016

日程 7月29日(金)

① 11:00～ ② 14:00～

会場 横浜みなとみらいホール

料金 S席 子ども3,200円／大人5,200円

A席 子ども2,500円／大人4,200円

B席 子ども1,800円／大人3,200円

指揮 梅田俊明／お話とうた 江原陽子／バレエ ス
ターダンサーズ・バレエ団

演目 第1部 映画『スター・ウォーズ』よりメイン
タイトル／シュトラウス「美しき青きドナウ」ほか

第2部 プロコフィエフ バレエ「シンデレラ」

第3部 オーケストラの演奏にのってみんなでうたお
う(さんぽ／勇気100% ほか)

問合せ 日本フィルサービスセンター 03-5378-5911

<http://www.japanphil.or.jp>

◆第18回響け!みやまえ太鼓ミーティング

日程 8月20日(土) 第1部13:50～17:30

第2部18:00～20:00

会場 第1部 宮前市民館大ホール 第2部 市民
広場(雨天時、宮前市民館大ホール)

参加費 無料

ゲスト 和太鼓×マリimba GONNA(ガナ)

主な演目 第1部 太鼓7団体による発表 第2部
かがり火の中で、太鼓4団体による競演

問合せ 宮前区役所地域振興課 044-856-3135

◆青年劇場 第115回公演

郡上の立百姓

日程・会場 9月17日(土)～25日(日)紀伊国屋ホール

9月27日(火) 神奈川県立青少年センター

9月28日(水) 府中の森芸術劇場ふるさとホール

作 こばやしひろし／演出 藤井ごう

権力に抗い、自らの生存をかけて闘う人々を、青年
劇場の総力を挙げて描く。

問合せ 青年劇場 03-3352-6922

<http://www.seinengekijo.co.jp>

■文化の仲間ギャラリー■

小野寺 晃^⑨

